

## 8、麻酔

執筆担当：志賀由佳、前原康宏

### Q8-1:術前回診で特に気を付けるべき点がありますか？

既往歴、現病歴、身体所見や検査所見など、通常の注意点と同じです。しかしとくに身体所見で、上肢の低形成や欠損がある場合は、下肢など点滴をとる部位やモニターの位置を事前に確認します。下肢の血管確保も難しい場合もあるので、優しく声をかけながら行いますが、必要に応じて中心静脈ラインの挿入も考慮します。硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔を行う場合は、姿勢がとれるかどうかを確認します。

### Q8-2:麻酔方法において禁忌はありますか？

特に禁忌というものはありませんが、各々の患者さんの合併症や状態に応じて麻酔方法を決定します。

### Q8-3 前投薬は必要ですか？

特に手術を初めて受けられる方などは、通常の患者さんよりも緊張や不安感が強い場合があります。そのような場合は前投薬を使用しても良いですが、術後の覚醒遅延の原因になることもあります。術前によく話をし、前投薬の希望の有無を聞くと良いでしょう。

### Q8-4:特に準備しておくものはありますか？

各々の患者さんの状態や合併症に応じて、モニターや薬の準備は通常通り行います。体格的に小柄な方が多いので、体型に合わせた細めのチューブや針、モニター類などを準備しておきます。血管の走行などを確認するのにエコーがあるとよいかもしれません。

## 8、麻酔

**Q8-5: 上肢が欠損ないし低形成の方の血圧のモニタリングはどのようにしますか？**

血圧は下肢にマンシェットを巻いて（後脛骨動脈で）測定します。下肢での血圧測定が困難な場合は、大動脈（大腿動脈など）での観血的血圧測定なども考慮する必要があります。

**Q8-6: 難聴の方への対応はどうしますか？**

術前回診では、紙面と図による麻酔方法の説明を行い、手術当日は具体的な指示を書いたボード（「深呼吸してください」「これから眠くなります」など）を予め準備しておき、それを見せながら麻酔を行うとよいでしょう。

**Q8-7: 麻酔薬の量は他の患者さんと同じですか？**

年齢や体重を考慮して薬剤の投与量を決定しますが、薬剤の必要量がより少量であった報告もあります。適切なモニタリングを行い、薬剤の投与量を調節する必要があります。

**Q8-8: 挿管時に気を付けることはありますか？**

特に挿管困難が多いという印象はありませんが、体格的に小柄な方が多いです。挿管チューブの径や深さは、写真や身体所見をみて注意深く決定してください。

**Q8-9: 術後の注意点はありますか？**

通常と同じく、術後は循環・呼吸状態を確認し、必要に応じて疼痛管理を行います。